第Ⅰ部　酒蔵建築の再生・活用研究及び
景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査結果

藤川昌樹

1章　市街地の歴史的景観調査の概要

1-1　趣旨

本書第Ⅰ部は、2022 年度に石岡市より筑波大学が受託した一般受託研究「石岡市歴史的及び里山景観調査研究」(課題番号 ACI04015)のうち、①酒蔵建築の再生・活用研究、②景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査の成果報告であり、2015～2021 年度の成果の延長上に位置付けられるものである。

2015年度には、昭和 4 年の大火以降に主として旧水戸街道(中町通り)及び駅前の八間通りに建てられた「看板建築」の様式を持つ店舗付住宅を対象に、中町通りでの連続立面図の作成、旧吉田クツ店・旧近清書店の実測調査を行うことで、 石岡の看板建築の特徴を解明するとともに、全国の看板建築の事例調査を実施して比較し、また看板建築を修理・活用するのに有効な住民参加型まちづくりファンドについての調査をおこなった。そしてこれらを踏まえ、今後の石岡のまちづくりの提案を行った。

2016年度には、中町通りを含む旧市街地（中心市街地活性化事業対象地区）全体の歴史的建造物（昭和25年以前築）の悉皆調査、大火後に復興した代表的町並の調査、まちづくりファンド創設のための調査、戸田邸の建築実測調査を実施した。そして翌年度に向けての提言を述べた。

2017年度には、2017年7月16日（日）に石岡市民会館で開催した「全国看板建築サミット」の開催支援（企画補助、シンポジウムのコーディネート、ロビーでのパネル展示等）を行ったほか、歴史まちづくりの事例調査を石川県小松市・金沢市、福井県高岡市で実施するとともに、4件の歴史的建造物（中村ラジオ店、水酉酒店、中藤米店、前忠商店）の実測調査を実施した。そして、石岡市市街地での歴史まちづくりに関する提言を行った。

ここまでは石岡市の旧市街地に関する研究が中心であったが、2018年度には、旧市街地で氏江きみ邸及び旧横瀬医院の建築の実測調査を行うとともに、筑波大学が石岡市より無償貸与をうけた大字小屋・上山集落の茅葺き古民家について、環境整備・集落におけるヒアリング調査、実測調査・改修案の作成、上山集落住民への説明、市内に現存する茅葺き古民家の悉皆調査、また2019年度に実施する茅葺き作業のための茅刈り作業とその保管を行った。

2019年度には、農村部の茅葺き保全システムについて考察するため、茅葺きの街並み・集落が保存されている例として、三ヶ所の重伝建地区（福島県大内宿・前沢集落、京都府美山町）及び重伝建地区ではない神戸市を取り上げて現地調査を行った。これらを参考に、小屋の古民家の修復データを活用しつつ、石岡市での保全システムについて検討を加えた。

2020年度には、景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査を、①土屋浩一邸、②石岡富国社、③冷水酒造、④鴻巣邸長屋門、を対象に行い、それぞれの建築史的評価を実施した。①～③は石岡の旧市街地の内部に建つ建物だが、④は旧八郷町の農村部に残された建物である。この結果、いずれも建造物としての価値が高いことが判明した。一方で、③については、その価値の高さにも関わらず、有効に活用されていない現実も明らかとなった。

2021年度には、前年度の調査で建築的価値の高さが判明した冷水酒造の離れ及び土蔵2棟を対象に、酒蔵建築の再生・活用のための研究を実施するとともに、景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査として柿岡の平家住宅を対象に行い、建築史的評価を実施した。

2022年度には、前年度の作業で残った冷水酒造の土蔵2棟を対象に、酒蔵建築の再生・活用のための研究を実施するとともに、かつての屋敷内の建築物構成の機能的な意味の検討を行った。また、景観重要建造物指定のための歴史的建造物実測調査として真家の新田穂高家住宅を対象に行い、建築史的評価を実施した。

石岡市の旧市街地は、古代の国府以来の長い歴史が積層した重厚な都市空間を持っている。また、周辺の農村部も今でも魅力的な景観と貴重な茅葺き古民家を残している。2015年度からの8ヶ年度にわたる調査・研究を行って来たが未だその魅力の一端しか明らかにしていないであろう。さらに研究を深化させることで、より実効性のあるまちづくり・むらづくりの提案が可能となるものと思われる。今後もそのような作業を続けて行きたい。（藤川昌樹）

1-2　参加者

今年度の調査への参加者は表 1-2-1 の通りである。

表 1-2-1　参加者一覧

教員			
藤川　昌樹　教授			
学生			
呂　志裕（D2）	楊　佳楽（D1）	艾　思思（M2）	祝　媛捷（M1）
飯塚将太（M1）	梁　梦燕（M1）	BIAN JIAQI（M1）	安井悠人（M1）
高須賀アマラ（M1）	古市麻菜子（M1）	吉田悠乃（M1）	長田みつき（M1）
饒　喻杰（M1）	羅　　琅（M1）		

1-3　スケジュール

今年度の主要な調査等は表 1-3-1 の通りであった。

表 1-3-1　主なスケジュール一覧

日程	内容
2022 年	
6 月 25 日(土)	石岡市街地巡検
8 月 4 日(木)	新田穂高邸実測調査
8 日(月)	不破先生（東北工業大学准教授）の古民家→再生についての講義
11 日(木・祝)	冷水酒造土蔵掃除 1
12 日(金)	〃　2
10 月 16 日(日)	〃　3
27 日(木)	全体打合せ（ONLINE、冷水貴子氏・設計事務所等と筑波大学側参加者一同による）
11 月 14 日(月)	中間発表（筑波大学内部）

2023 年	
1 月 10 日(火)	打合せ（筑波大学内部）
20 日（金）	八郷のオリジナルな料理製作実験 （於筑波大学文系修士棟 8A301、冷水貴子氏・設計事務所等・石岡市役所職員と筑波大学側参加者一同による）
3 月 29 日(水)	景観調査委員会での報告

2 章　酒蔵建築の再生・活用研究

石岡はかつて多くの酒蔵・醤油蔵が立地する醸造都市であった。現在でも、旧市街地内部で府中誉が醸造を続けているし、冷水酒造も酒店の営業は続けている。いずれも本格的に酒造を行なった酒蔵として、現在でも敷地内には多くの酒蔵関連遺構が残されている。府中誉については主屋をはじめとする計 7 棟の建物が国の登録文化財に登録されているが、これまで冷水酒造の建築物はその価値が検討されてこなかった。しかし 2020 年度の筑波大学の調査で、離れ、土蔵（2 棟）の価値が明らかにされたため、2021 年度は酒蔵建築の再生・活用研究を実施することとし、i)離れの建築の掃除、ii)関東を中心とする地域での酒蔵の再生・活用事例の調査、iii)冷水酒造の敷地の立地、建物の特徴に即した再生・活用計画の提案を行った。

その後、冷水酒造では、敷地内の南辺に建つ土蔵（2020 年度調査における「土蔵 II」）を利用してクラフトビールの製作・販売を行う事業を立案することになったため、2022 年度は、①上記の 2 棟の土蔵の掃除、②敷地内建築の位置付けに関する再検討、③八郷の食材等を用いた石岡市オリジナルな料理・つまみの試作を行った。

① は、8 月 11 日（木・祝）・12 日（金）及び 10 月 16 日（金）に行ったもので、多くの物品を土蔵の中から運び出して仕分け・洗浄を行うとともに、土蔵の内部の清掃も行った。不用物品の廃棄については、トラックの手配を含めて石岡市都市計画課職員の皆さんの全面的な助力を得た。感謝の意を表したい。

② は、冷水酒造に残されていた古写真及び昭和 11 年(1936)作成の絵図を現存遺構と付き合わせるとともに、辰馬本家酒造・本嘉納家の古図に描かれた建築の姿を参考にしながら、一般的な日本酒種の醸造過程と建物との対応関係を把握し、往時の建物配置の推定を行った。

③ は、クラフト・ビール、つまみ、料理の三つにつき提案を行うもので、つまみ・料理については、1 月 20 日（金）に製作実験を行い、冷水貴子氏・設計事務所等・石岡市役所職員と筑波大学側参加者一同でその評価を行った。

最後に以上の成果につき、3 月 29 日（水）の景観調査委員会にて報告した（別紙）

3 章　歴史的建造物実測調査結果―新田邸

3-1　調査概要

景観重要建造物指定を検討するための調査として、真家の新田穂高邸の実測調査を実施した。

調査は次の要領で行った。

・日　程：2022 年 8 月 4 日（木）

・調査員：藤川昌樹、安高尚毅、宋宇辰、呂志裕、艾思思、羅琅、饒喻杰

・調査内容：配置図・平面図（主屋・）の作成、写真撮影、所見の作成

3-2　調査所見

真家の山麓に建つ茅葺きの民家である。かつては長谷川家の住まいであったが、1998 年秋より現当主の新田穂高氏世帯が居住している。

主屋の建設年代を示す史料は得られなかったが、建築の特徴から幕末頃の建物かと推測される。座敷廻りの長押に和釘が用いられているので、明治中期以前の建物であることは確実であるが、一方で建物の南側・西側で軒を化粧垂木としていること、養蚕への対応がみられることなど、比較的新しい建築の特徴もみられるからである。

主屋は平家で、梁間 4 間半・桁行 10 間の規模を有する茅葺き寄棟の建物である。棟に煙出しの越屋根が懸けられている。北側（奥側）では増築が行われており、特に土間背後では添え柱を用いつつ 1 間半規模の下屋を出す中古の改造がみられる。

間取りは 2 列 3 室の 6 間取りであり、各室はいずれも 8 畳の広さを有する。床の間・付書院を備えた主室の座敷が西北端に位置する、いわゆる「鍵座敷」であり、表側からＬ字型の続き間を構成する。主室とその東側の室との境には、現在では開口部が設けられて、襖がたてられているが、かつては壁だった可能性が高い。なお、表側中央及び東側の 2 室には天井 2 個所に細長い空気抜きの仕掛けが施されている。屋根裏で養蚕をするために設けられた通風口だという。西南端の座敷天井にも開口が設けられており、屋根裏への出入り口だったと推定される。

土間は間口 3 間半、奥行き 4 間の広さで、当初は柱を省略していたと見られる。現在では土間の東側 1 間半分を壁で区画する改造が行われているが、かつてはこの位置に馬屋が設けられていたという。

このほか、敷地内には、煙草乾燥小屋、真壁造りの蔵、車庫、旧豚小屋が残されている。

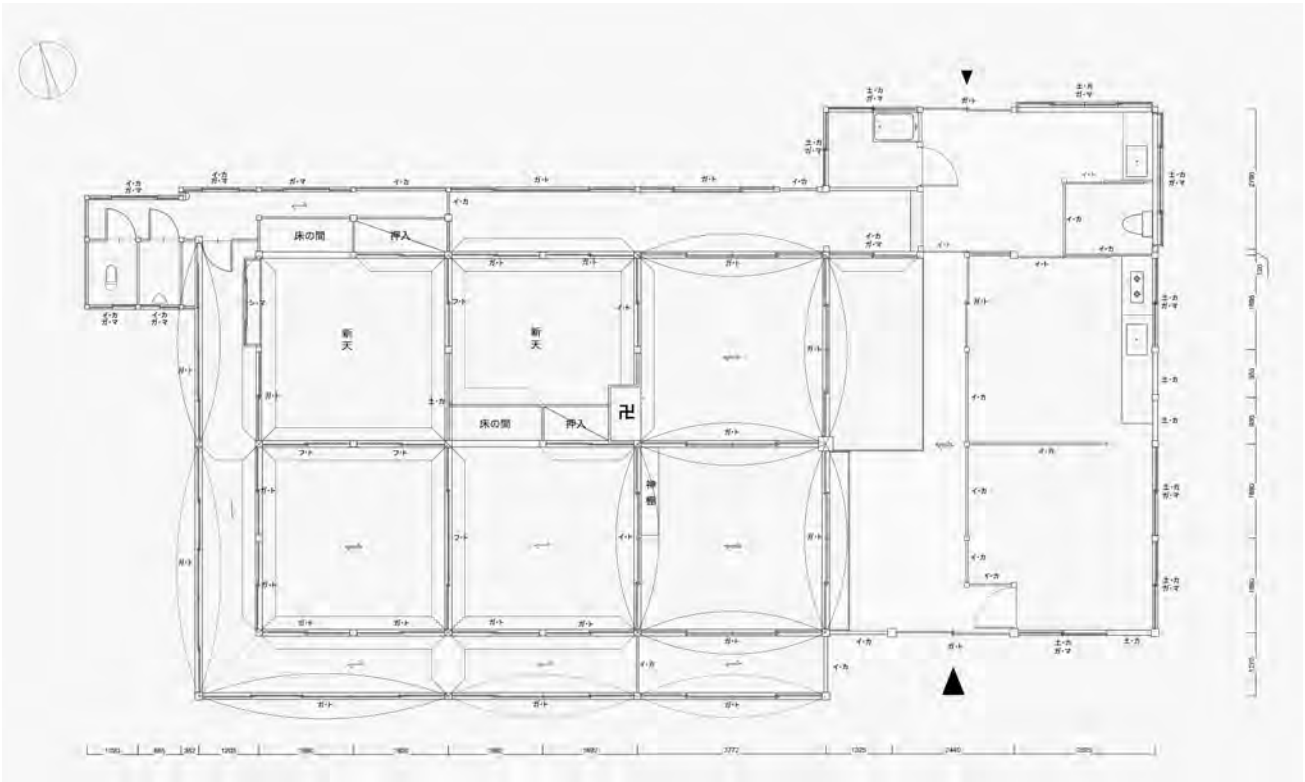
石岡市内でも数少なくなった現存する茅葺きの民家の一つであり、敷地内の付属屋も各種が残されていることとあわせて貴重であり、景観重要建造物への指定が妥当と考えられる。

▲空からみた屋敷

▲配置図

▲主屋（オモヤ）正面外観

▲主屋（オモヤ）西南外観

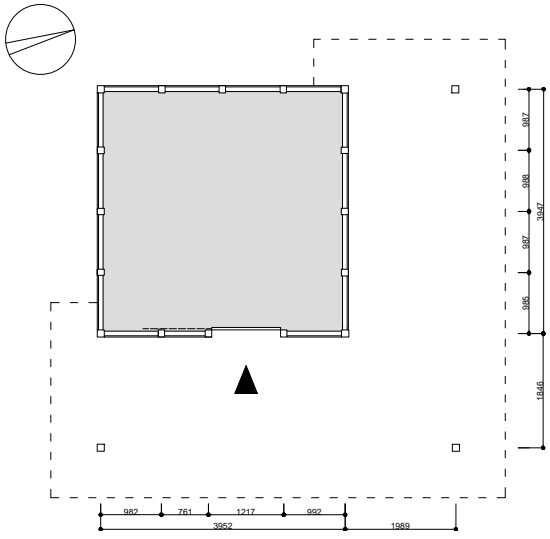


▲主屋平面図

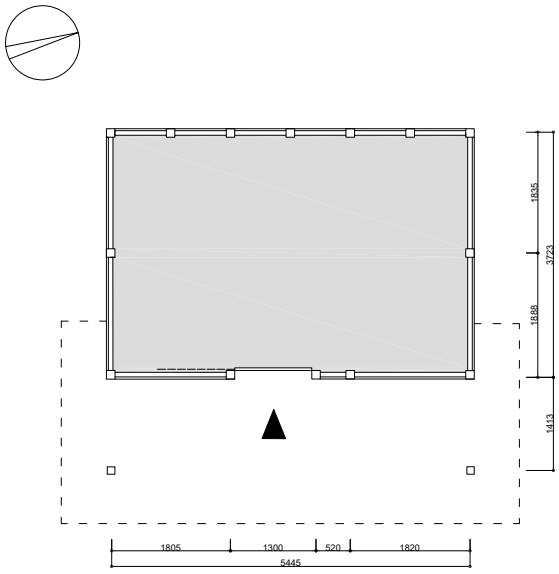
▲煙草乾燥小屋外観

▲真壁造りの蔵正面

▲真壁造りの蔵側面



▲煙草乾燥小屋平面図



▲真壁造りの蔵平面図

「酒蔵建築の再生・活用研究」２ 結果報告

筑波大学大学院社会工学学位プログラム
歴史的建造物ＷＳ
2023.3.29

- 藤川　昌樹　教授
- 呂　　志裕　D2
- 楊　　佳楽　D1
- 艾　　思思　M2
- 祝　　媛捷　M1
- 飯塚　将太　〃
- 梁　　梦燕　〃
- BIAN JIAQI　〃
- 安井　悠人　〃
- 高須賀アマラ　〃
- 古市麻菜子　〃
- 吉田　悠乃　〃
- 長田みつき　〃
- 饒　　喻傑　〃
- 羅　　琅　〃

協力：東北工業大学・不破正仁准教授

調査概要 1

・2015年度　・中町通りの連続立面図作成　・実測調査2軒（吉田クツ店・近清書店）

・2016年度　・旧市街地の歴史的建造物悉皆調査　・実測調査1軒（戸田邸旧主屋）　（＋山本研究室）

・2017年度　・「全国看板建築サミット」支援　・実測調査4軒（中村ラジオ店・水酉酒店他）
・歴史まちづくり事例調査（石川・富山県）

・2018年度　・実測調査2軒（氏江きみ邸・旧横瀬医院）・茅葺き古民家悉皆調査
・小屋の古民家整備事業1（環境整備・実測調査・葺き替え用の茅刈り）

・2019年度　・小屋の古民家整備　・茅葺き集落の葺替えシステム調査（福島・京都・兵庫）（＋村上研究室）
・景観重要建造物指定のための実測調査１（保科邸長屋門）

・2020年度　・小屋の古民家整備支援（すす払い・茅葺き体験・茅刈り）
・景観重要建造物指定のための実測調査２（石岡富国社・冷水酒造・土屋浩一邸・鴻巣隆邸長屋門）

・2021年度　・酒蔵建築の再生・活用研究ー冷水酒造の離れ・土蔵を対象にして　→冷水酒造に動き！
・景観重要建造物指定のための実測調査３（柿岡・平佳世子邸）

・2022年度　・酒蔵建築の再生・活用研究２ー冷水酒造の土蔵を対象にして
・景観重要建造物指定のための実測調査4（新田邸の実測調査）

調査概要 2

主要日程

2022年

・ 6/25　石岡市街地巡検

・ 8/ 4　新田邸実測調査

・ / 8　不破先生の古民家→再生についての講義

・ /11　冷水酒造土蔵

・ /12　〃　①掃除

・10/16　〃

・ / 27　全体打合せ

・11/14　中間発表

2023年　②建築構成の再検討 ③ビール・料理の提案

・ 1/10　打合せ

・ /20　八郷のオリジナルな料理製作実験

・ 3/29　景観調査委員会

土蔵の掃除① ：荷物の運び出し

土蔵の掃除①：荷物の運び出し

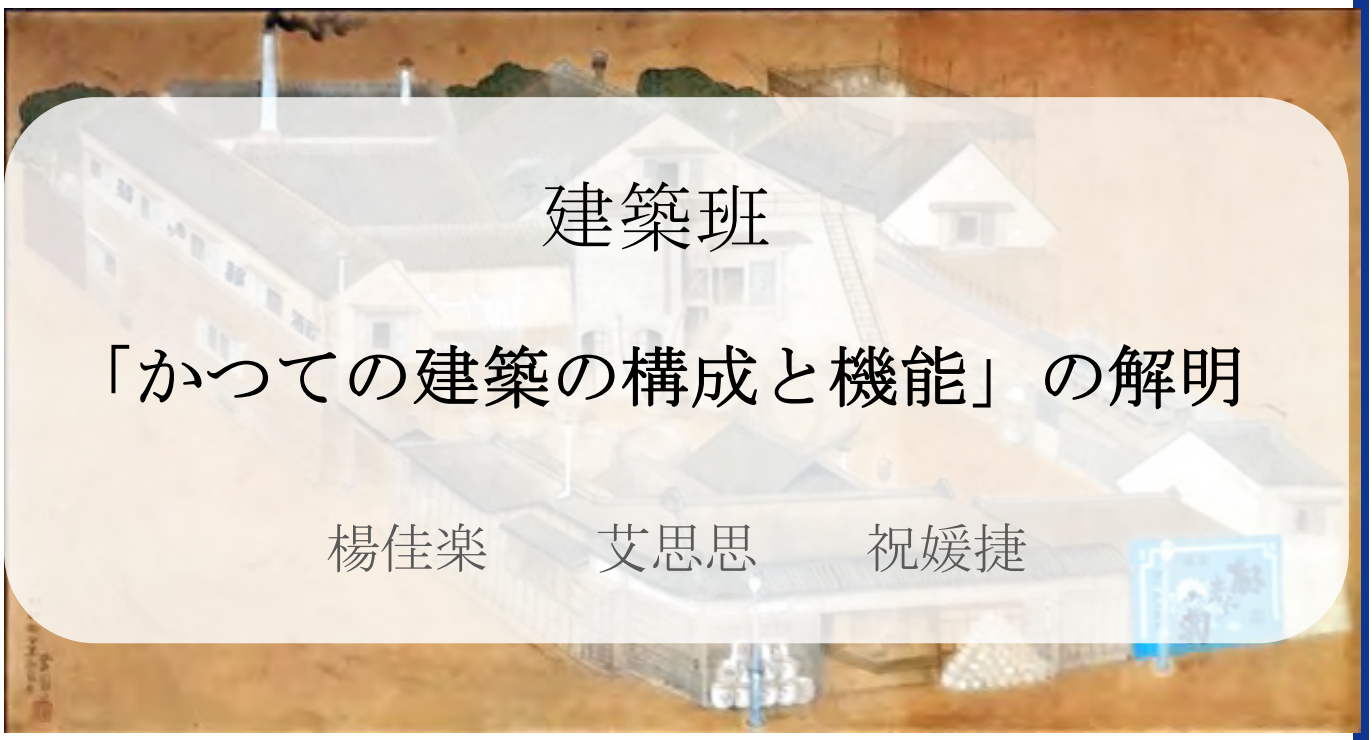
土蔵の掃除①　：荷物の運び出し

土蔵の掃除②：BEFORE

土蔵 II 2階

土蔵の掃除② ：AFTER

土蔵 II 2階



建築班

「かつての建築の構成と機能」の解明

楊佳楽　　艾思思　　祝媛捷

建築班発表

○発表内容

他の酒造の工程と建物を参考し、昭和の絵図の建物の機能を理解した上、冷水酒造の建築の機能を解明

○参考資料

1．建築の位置

冷水酒造古絵図（昭和11年）

昭和時代の古写真

2．建築の機能

辰馬本家酒造旧本蔵の平面図

本嘉納家文書設計図面

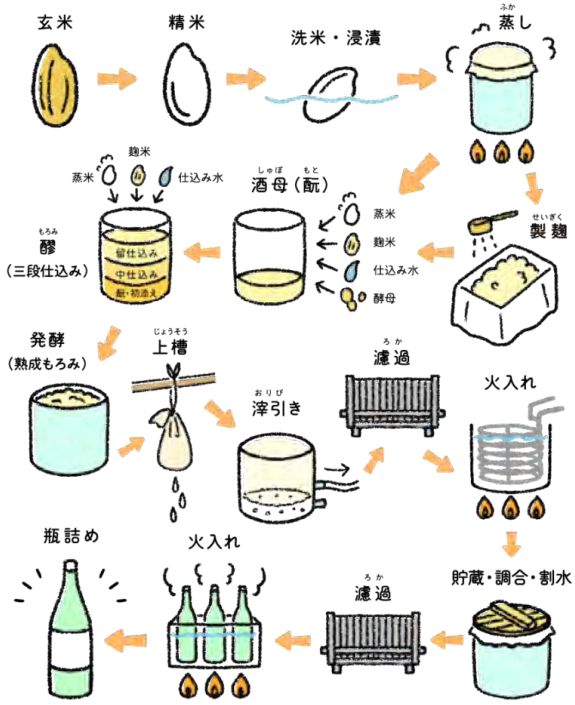
建築班発表

○酒造の工程図

右の図は日本酒の醸造工程を示し、以下の手順のに従ってお酒を造る。

1. 玄米・精米
2. 洗米・浸漬
3. 蒸米
4. 製麹
5. 仕込み・もろみ
6. 上槽・火入れ
7. 貯蔵
8. 調合精製
9. 瓶詰め

酒造の建物の配置及び構成を考えるには、人はどこで、どのような仕事をしていたことに関わっているため、当時人間の動きも考えられる。



出典：https://www.sakesen.com/blog/how-to-make-sake/

酒造工程図

建築班発表

○古絵図と写真により建築配置を解明

建築班発表

○古絵図と写真により建築配置を解明

昔冷水酒造の平面配置図（推測）

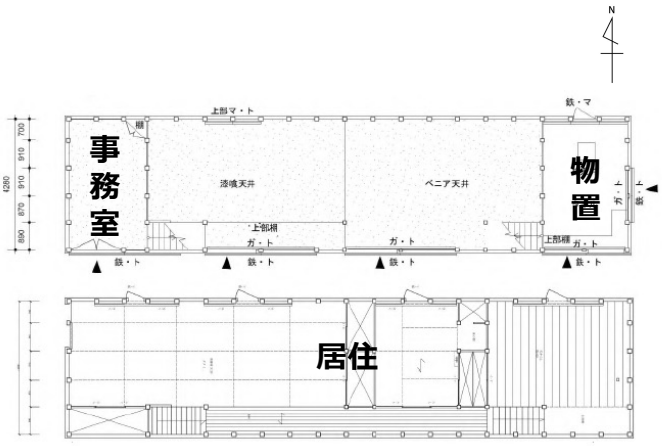
建築班発表内容

○実測調査からわかる土蔵Ⅱの機能

1 階は、10 間の桁行が壁で西から1 間半・7 間・1 間半に区切られている。西端の1間半は洋風の内装を持つ事務室（元は検査室）であり、床はタイル貼りで天井を格天井とする。7 間のうち西側3 間部分も漆喰天井・円形の天井飾り（メダリオン）・ガラス戸が残されているので、西洋風の内装を持つ洋間であったと推定される。東端の1間半は物置として使用されている。

2階は、「広敷」と呼ばれ、昔は杜氏らの居住空間として用いられた。西から2間半・2間・5間半の位置に壁を入れ、北側半間を廊下・棚及び二ヶ所の階段としているが、東よりの2室は畳敷きとなっている。

引用元：「冷水酒造」の建築的特徴
石岡市旧市街地における歴史的建造物の研究その4

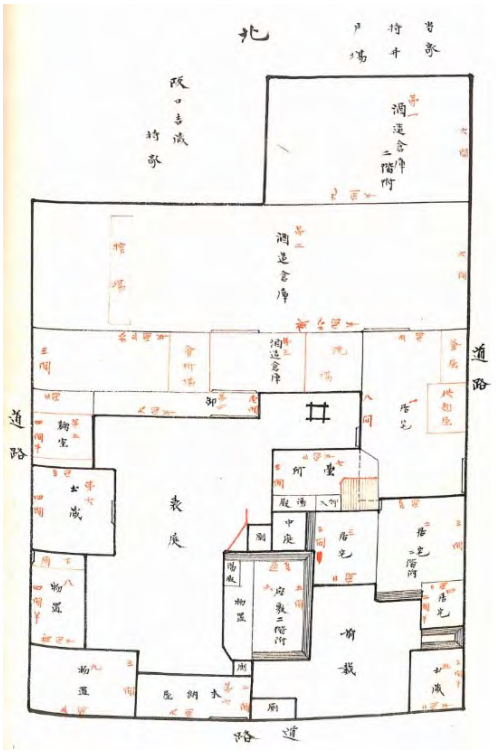


出典：「冷水酒造」の建築的特徴
石岡市旧市街地における歴史的建造物の研究その4

長土蔵の平面図

建築班発表

○辰馬本家酒造(兵庫県西宮市)平面図から建築配置を推測



辰馬本家酒造旧本蔵の平面図

- 居住空間と作業空間がはっきり分ける
- 洗い場、釜屋は近い場所にある

2. 洗米・浸漬⇒ 3.蒸米（火入れ）

- 仕込蔵、釜屋は近い場所にある

5.仕込み・もろみ⇒6.上槽（火入れ）

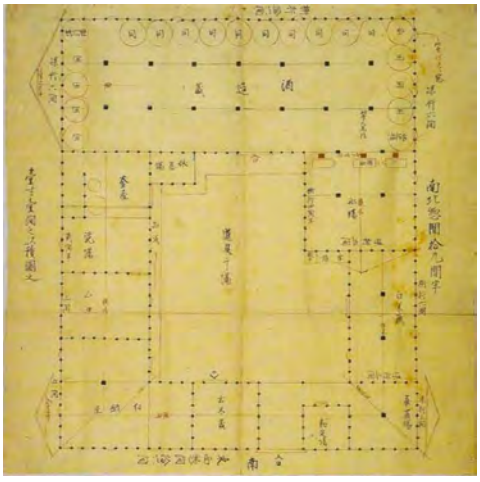
- 一番大きい建物は仕込蔵（酒造蔵）

桶を置くため

- 物置は塀沿いに配置
- 住宅の傍に土蔵がある

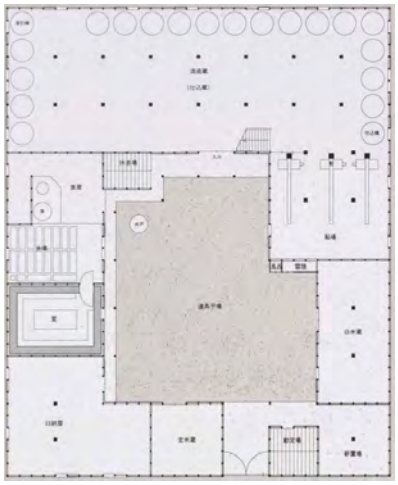
建築班発表

○本嘉納家文書（兵庫県灘五郷）から見た建築配置を推測



出典：本嘉納家文書

酒造設計図面



出典：灘五郷・千石蔵の想定復元

酒造復元図

- 入口は堪定所
- 米倉、臼納屋、室、釜屋、仕込蔵は近い場所にある
- 一番大きい建物は仕込蔵（酒造蔵）
- 酒造の手順に従って建築を配置（動線計画）

建築班発表

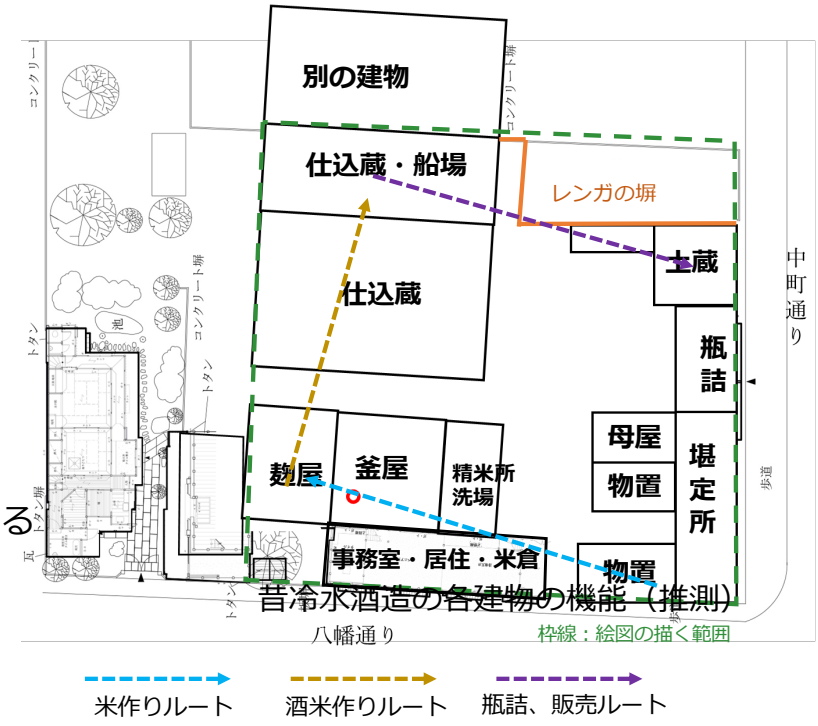
○建築配置を推測

酒造平面配置の共通点

- 洗い場、釜屋は近い場所
- 仕込蔵、釜屋は近い場所
  一番大きい建物は仕込蔵
  （酒造蔵）
- 入口は堪定所

動線計画

- 人の移動、作業を簡単にできる
- 他の作業を妨げない
- 最短距離で効率的に行ける



昔冷水酒造の各建物の機能（推測）

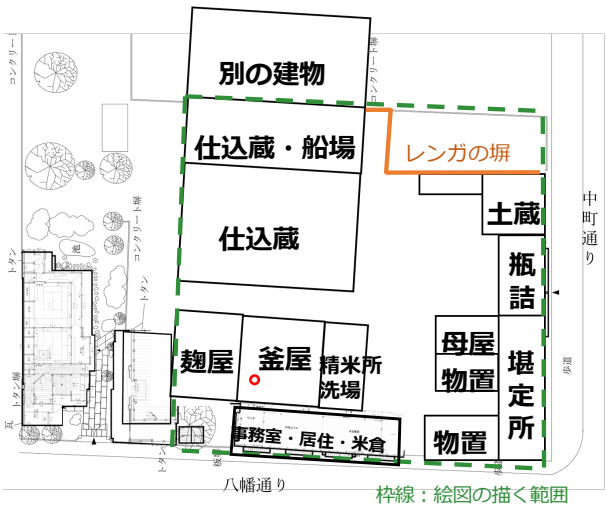
冷水酒造平面配置図（現在）

建築班

○まとめ

写真、古絵図により建築配置を判明

他の酒造平面図、動線計画により建築の機能を判明



ビール班

「八郷風味のクラフトビール」の提案

羅朗　　卞佳琦　　饒喻杰

日本のビール事情

日本のビール市場の99%は四大メーカーに占められている

クラフトビール醸造所

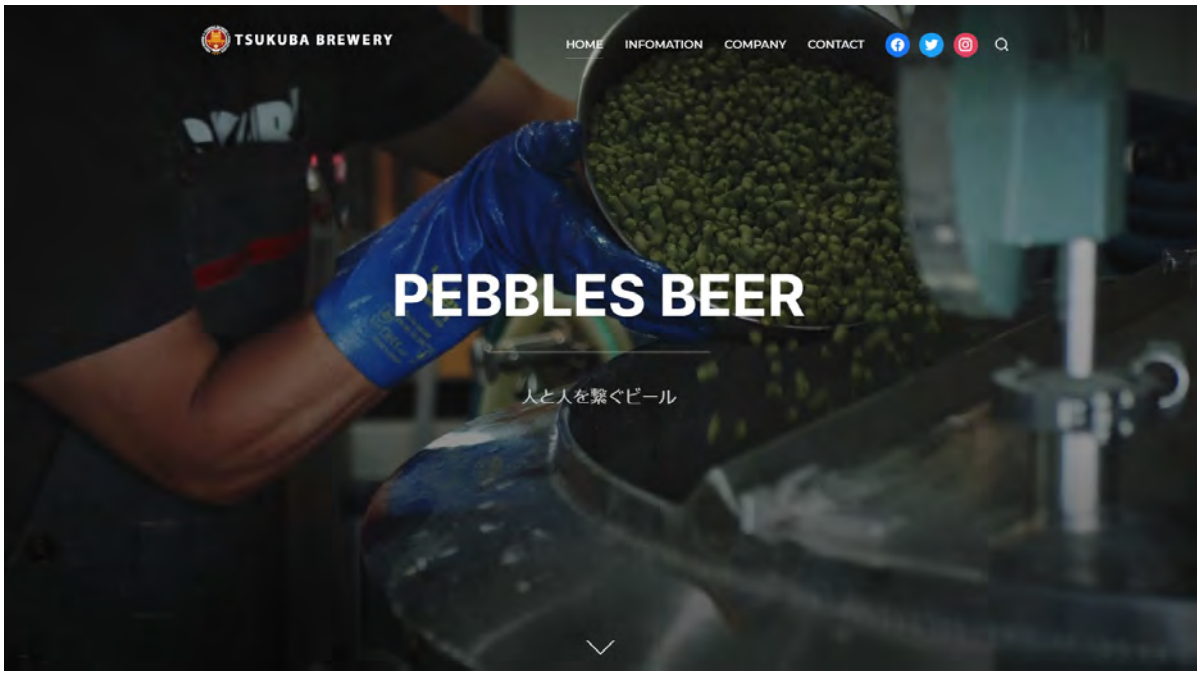
アメリカ　6000社以上　　日本　658社

2022年8月の最新情報により

クラフトビール醸造所の数は2015年頃から急増、
2022年8月時点で658社に至った。

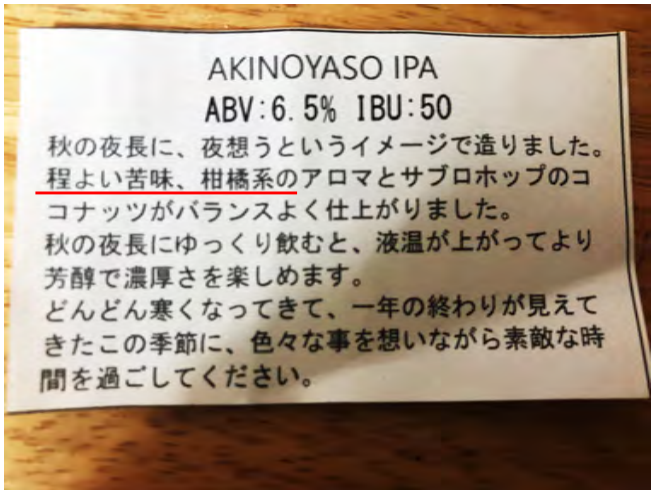
しかし酒税法により、アルコール度数1以上の酒を作るには資格が必要

つくば市にあるクラフトビール醸造所



http://pebbles-tsukuba.com/

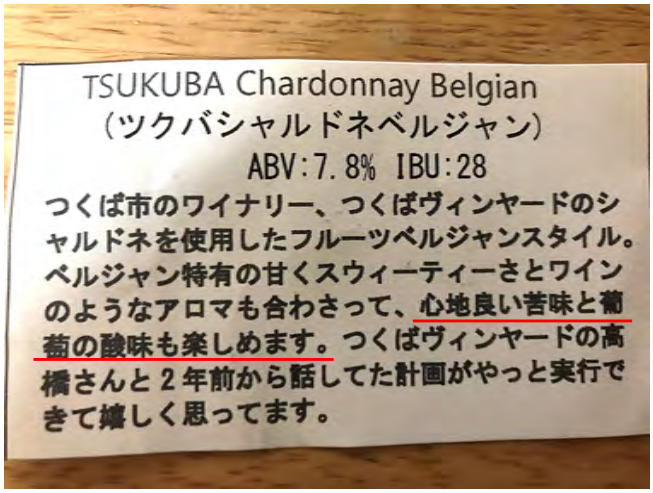
参考１



苦味が高く、文旦の香り、渋みは口の中残ります。

0.5Lで1100円

参考２



果物ビールの印象と異なり、甘くないワインの香りがある。

0.5Lで1000円

Pebbles Beerの客層

30代～60代

30後半～40代－社会中堅管理職（と推測する）

販売価格

一般発売

（スーパー、コンビニなど）

発泡酒（200円） ビール（300円）

クラフトビール（一般発売300～700円）

店

（居酒屋など）

居酒屋のビール　（500円前後）

クラフトビール醸造所直売　（1000円前後）

クラフトビールの構成

味

- 甘
- しょっぱい
- 酸っぱい
- 苦
- 辛

味　ボディ　風味

ボディ（厚み）

- ライトボディ
  light-bodied
- ミディアムボディ
  medium-bodied
- フルボディ
  full-bodied

風味

- レモン
- 蜜柑
- スイカ
- チョコ
- りんご
- 牛乳

提案

1. IPA

- 文旦（ゆず）
- ミント

真夏の夜風

2. スウィート・スタウト
（Sweet Stout）

お祭り

- 焼き芋

つまみ班

「八郷にしかないおつまみ」の提案

安井悠人　梁梦燕　呂志裕　飯塚将太

・欧米風料理

チーズナチョス

鶏レバーのコンフィ

ポルケッタ

ブルスケッタ

・郷土料理

すみつかれ

昆布巻き

れんこんのおろし揚げ（土浦市）

パイタ焼き（那珂湊市）

・季節料理

いちごとサーモンのブルスケッタ

鶏むね肉とブルーベリーのロール

さつまいもとりんごのミルクシチュー

生ハムとみかんのサラダ

酒蔵再生計画　つまみ班提案

① クラフトビールに合う＋蔵の内装の計画
→**スペインのバルようなおつまみ**

サルサティブ

ポルケッタ

ガーリックシュリンプ

② 石岡市・八郷地区は、**日本屈指のフルーツ栽培地**として知られている

冬から春
いちご

夏ブルーベリー
ぶどう
梨

秋から冬
みかん
りんご

③ 洋風料理×伝統土蔵
→つなぎ方法　「串」

提案内容

スペインバルの要素＋八郷の果物を掛け合わせて「八郷にしかないおつまみ」

酒蔵再生計画　つまみ班提案

コンセプト ～クラバー 蔵（クラ）とbar（バ-）～
八郷にしかないおつまみ

1. **パン&ポーク クラバー串**　bread&pork clubber
2. **チキン&イチゴ クラバー串**　chicken&strawberry clubber
3. **シュリンプ&アップル クラバー串**　shrimp&apple clubber

希少性&話題性の創出
洋風と伝統の結合により独自の個性

パン&ポーク クラバー串 (bread&pork clubber)

パン:フレンチバゲット、トマト、キュウリ、スライスチーズ、マヨネーズ
＋豚肉の使う：ハム、サラミ

チキン&イチゴ クラバー串 (chicken&strawberry clubber)

手羽中、ごま油、酒、みりん、水、しょうゆ
砂糖（蜂蜜）
＋いちご

シュリンプ&アップル クラバー串 (shrimp&apple clubber)

えび（殻付き）
にんにく　塩　ブラックペッパー
バター　パセリのみじん切り
＋りんご

クラバー：**蔵（クラ）**と**bar（バー）**の結合
伝統の**串**　と現代の**味**　　の結合

試食会の現場で作る

試食会

〈いただいた感想〉
・パン＆ポーク　クラバー串　…　味が美味しい
・チキン＆イチゴ　クラバー串　…新規性が高い、骨付き肉によりイチゴと一緒に食べることが難しい
・シュリンプ＆アップル　クラバー串　…　味が美味しい、エビとリンゴのバランスが良い

＜課題＞
・ビールとの相性
・食べにくさの改善
（チキン＆イチゴ）

八郷の特産品の代表例

フルーツ

「石岡市八郷はフルーツパラダイス」八郷は温暖な気候で、くだものの南限・北限が交差していて種類も豊富。観光果樹園も約５０軒。

たまご

自然の日差しと風通しの良い開放型鶏舎で飼育しており、飼料もとうもろこしをベースとし、角の立たない優しい味わい。

味噌

東屋糀味噌の熟成された“手造り味噌”がお土産に人気。黒豆味噌・麦味噌・白味噌など、8種類の味噌を販売。

八郷の特産品の代表例

しし鍋

2020年から地元で捕れたイノシシ肉を使ったしし鍋の提供が始まった。市八郷商工会が猟友会や市内の飲食店などと連携し、今ではご当地グルメとなっている。

そば

常陸秋そばというブランド品種があり、国内でも高値で取引されている。旧八郷町の東西・南北15キロ圏内に全国有数のそば処「やさとそば街道」がある。

納豆

八郷地区で栽培された大豆を主な原料として使用しており、原料の確保から、製造・販売までを一貫してJAやさとが行っている。

コンセプト

～石岡の風土を楽しめるFoodを～

①新しい魅力の創出
　石岡の特産品を掛け合わせた新しい商品

②季節を感じる食材の使用
　季節ごとに食材を変え、その時の石岡を感じてもらえるような商品

③SNS映え
　地元の方だけでなく、多くの人々に魅力を伝えられるようなキャッチーな商品

①味噌ポテト・・・ふかしたジャガイモを天ぷらにしたものに、
甘めの味噌ダレをかけた秩父の名物Ｂ級グルメ

「特選味噌」と「白味噌」以外の味噌でも、味の変化が楽しめます！

②フルーツ生春巻き・・・フルーツや生ハム、チーズ野菜等を春巻きで巻いたもの

入れる材料によって様々な組み合わせが楽しめます！

酒蔵再生計画　八郷食材班提案

試食会の様子

＜いただいた感想＞
フルーツ生春巻き・・・少し甘め、新規性が高い
味噌ポテト・・・味が美味しい

＜課題＞
・ビールとの相性
・手間がかかる

今後の展望

つまみ班と連携することで、料理の統一感を出していきたい
石岡らしさをもっと伝えたい

2023年度の目標

・活用策の実現化？：冷水酒蔵離れ・土蔵

・他の対象の再生・活用案の提案

・景観重要建造物指定のための実測調査５